第3種郵便物認可　北海道建設新聞　2016年(平成28年)2月2日（火曜日）　民間・総合

発寒に2棟構成MS

日本グランデ 3月中旬着工

日本グランデ（札幌市中央区大通西5丁目1の1、平野雅博社長）は、札幌市西区で分譲マンションの仮称グランファーレ宮の沢ザ・パークフロント新築を計画している。自社で設計を進めており、3月中旬ごろの着工を予定している。

同マンションは2棟で構成する。いずれもRC造で、南棟が10階建て、延べ4421平方㍍、西棟が9階建て、延べ2133平方㍍の規模で構想。南棟は2LDKと3LDK、4LDKの間取りで計45戸、西棟は1LDKと3LDKの間取りで計24戸を設ける。

共用施設としてシアター&通信カラオケルーム、フィットネスルームを検討する。駐車場は72台分を用意する。

建設地は札幌市西区発寒6条12丁目701の6。イオンモール札幌発寒などの商業施設をはじめ、地下鉄宮の沢駅やJR発寒駅などが近い好立地にある。完成は2017年3月ごろを予定している。

あす認定こども園公告

札幌パルコ

地下2階を改装へ

春にもリニューアルオープン

パルコ（本社・東京）は、札幌パルコ地下2階の改装を計画している。ファッション中心の構成を見直して、新たに「食」などをテーマにしたゾーン構成を検討。テナントの内装などを早ければ2月中に取り掛かる方針だ。春ごろのリニューアルオープンを目指して

エネルギーなどで国際交流

国連大学が認定する地域拠点（RCE）に、道内の教育機関や民間団体で構成するRCE北海道―道央圏設立準備会が選ばれ、3月16日に北大環境科学院で設立総会と記念イベントを開く。エネルギーや産業など世界共通の課題をテーマに国内外の教育・研究機関と交流し、教育活動やビジネスチャンスの創出に取り組む。

RCEは、国連と加盟国が地球規模の課題解決に取り組むため、国内外の大学や研究機関と連携する地域拠点。国内では6カ所に設置されている。

2015年12月に北海道中小企業家同友会札幌支部や酪農学園大、北大大学院環境科学院、北海道環境財団、NPO法人さっぽろ自由学校遊の主要5機関と、31の参画組織で構成する設立準備会が道内で初めてRCEとして認定された。

今後100年を見据えた本道での持続可能な地域社会の実現と、15年9の達成が目標。廃校を利用した学びの場づくりのほか、観光と語学研修を兼ねた教育プログラム、道央圏の地域行動計画などを策定する。

新日鉄住金

日新製鋼買収へ

17年3月めどに子会社化

国内鉄鋼最大手の新日鉄住金は1日、国内第4位の日新製鋼を2017年3月をめどに買収し、子会社化すると発表した。両社は同日、検討開始の覚書を交わした。世界的な鋼材需要の落ち込みなど業界の先行きに不透明感が増す中、両社は重複分野の効率化を図り、経営基盤の強化を進める。

新日鉄住金は日新製鋼に約8%を出資する筆頭株主。新日鉄住金は、出資比率を51―66%に引き上げる予定で、5月中旬をめどに子会社化の方法を含め詳細を決定する。株式取得額は1000億円規模になるとみられる。日新製鋼は子会社化の後も上場を維持する。

鉄鉱石を溶かし、鉄を取り出す高炉を持つ日本メーカーは、新日鉄住金、JFEホールディングス、神戸製鋼所の3社に集約される。

日新製鋼は自動車や家電に使われる薄板や、ステンレス事業に強みを持つ。新日鉄住金は子会社化により、世界第2位の鉄鋼メーカーとして競争力を高める。日新製鋼は、新日鉄住金との連携強化を図る中で、19年度末まで、地下鉄宮の沢駅やJR発寒駅などが近い好立地にある。完成は2017年3月ごろを予定している。

法人の料金割引 4月から定額制

北電が新メニューで

北海道電力は4月1日から、法人向けに提供する「クックeプラスII型」など4つの料金メニューの割引型式を、使用量に応じて算出する従量制から定額制に変える。加入に必要だった割引額を算定する専用計量器の設置も排除。割引料金の明確化や加入条件を簡素化し、年間400口の法人契約を目指す。

同社はこれまで、飲食店や医療機関など高圧で契約する法人向けに電化機器の用途によって選べる料金メニューを用意。蓄熱式空調システムと暖冷房機器の利用者を対象とした「エコ・アイス・プラスII型」、電化厨房（ちゅうぼう）機器を持つ業者向けの「クックeプラスII型」、ヒートポンプ熱調整契約II型」を提供している。

暖冷房機器を使用し、延べ2000平方㍍ある事務所だと、年間で十数%の電気料金が割引となる。

4月1日からは、これら4つの料金メニューで、加入条件として必要だった割引額を算定する専用計量器をなくし、ブレーカーの容量を基に算定する。電気料金も加入者と契約時に割引率を話し

ホテル万惣の雅館

オリックス不動産子会社 レストラン

【函館】函館湯の川ホテル（東京都港区芝2丁目14の5、橋正社長）は、はこだて湯の川温泉「ホテル万惣」を2期に分けてリニューアルする。4月にも着工する1期で雅館を全面改装し、2期で本館と東館の解体を計画。解体後の本館跡に平屋建てのレストラン棟新築を構想している。

函館市湯川町1丁目15の3のホテル万惣は1954年に創業。客室数は189室、収容人数は845人で、RC一部S造、地下1地上7階、延べ1万4135平方㍍の規模。本館と雅館、東館の3棟で構成される。

昨年10月、オリックス不動産の子会社である同社が取得。雅館は、和モダンをテーマに客室の大半を洋室にするほか、外壁改修や塀の設置などを進め、旧耐震基準の本館と東館は解体を計画している。

雅館は1階レストランをエステや湯上がり所に変更し、浴室のデザインを一新。2階宴会スペー